

## DX

データとデジタル技術の活用を通じて、  
経営の効率化と高度化を目指します。

IT 本部長 蜂須賀 正義



データの一元化とその活用により、分析や判断に必要な情報をタイムリーに提供し、事業運営や経営管理の効率化・高度化を実現します。そのためには、非効率な業務や作業を見直し、そのリソースをより付加価値の高い業務へシフトすることや、現場・事業・経営のあらゆる層で「データに基づく意思決定」、すなわちデータドリブン経営への転換を推進していく必要があります。これらは単に業務プロセスを改善することに留まらず、企業価値やプレゼンスの向上にも直接つながります。革新的なデジタル技術を活用し、顧客中心のアプローチ、組織文化の変革、そしてイノベーションと新たなビジネスモデルの開発を実現していきます。

### 業務効率化とプロセス改革のためのITソリューション開発

営業、設計、生産準備、品質管理の各段階でのエンジニアリングチェーンの革新を促進し、業務効率化と開発期間の短縮を実現するために、ITプラットフォーム構築に取り組んでいます。また、調達、製造、品質、物流のサプライチェーン基盤を強化することで、生産性向上、コスト低減、製造リードタイム短縮も追求しています。新たな取り組みとしては、配送トラックの荷量をAIで正確に計測することで積載率の向上にもつながっています。これら

のプロセス改革は、社内の業務だけでなく顧客やサプライチェーンに対しても価値を創出していくことが重要と考えています。

配送トラックの荷量をAIで正確に計測するシステムを開発



### グローバルでの経営管理の効率化と高度化を目指した基盤強化

グローバルな視点での経営効率化と高度化を目指し、IT基盤強化に取り組んでいます。老朽化した基幹システムの刷新にも着手し、生産管理や会計領域での業務プロセスを刷新することで、調達・製造の計画精度向上、進捗管理の精緻化、基幹業務の全体スルーでの効率

化などを図っていきます。コストや収益、ROIC指標の粒度を詳細化するなど、財務会計・原価管理のデータを可視化し、意思決定の高度化やリソースの効率的な配分を可能にしていきます。

### DXを支えるデジタル技術開発と人材の発掘・育成

サイバーセキュリティ対策やリスク管理のさらなる強化に加え、機械学習(AI)によるデータ解析やクラウド技術の積極採用など、最新技術の導入にも力を入れています。

例えば、製造現場で振動センサーから得られるデータを予兆保全に活用したり、RAGチャットボット(検索拡張生成)という生成AIを構築して材料開発の業務に役立てることに取り組んでいます。また、全社向けには、会話型AIサービスを安全かつ有効に利用するための「生成AI利用ガイドライン」を展開しています。デジタル人材の育成では、データサイエンスなどの専門研修、全社員を対象と

したリテラシー向上、社内部門による市民開発の促進など、育成対象に合った施策を順次展開しています。DX推進のためのリーダーシップやコラボレーション力の定着、推進体制の強化とともに、それらに取り組むための組織文化の変革も目指します。

振動センサーのデータで予兆保全(AI機械学習)

